

第9回大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会 会議録

日 時	令和6年6月26日（木） 14：00～15：20		
場 所	島根県立男女共同参画センターあすてらす 3階 研修室1		
出席者	委 員：17名／17名 事務局：武田教育長、森教育部長、繩総務課長、渕橋総務課長補佐、 清水学校施設係長、井上学校再編係主任、渡邊学校施設係主事、 俵学校教育課長、山根学事・魅力化推進室長、藤原山村留学センター長		
傍聴人	11名	報道機関	2社
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		

1. 開会（進行：渕橋課長補佐）

委員の半数以上の出席を確認後、本委員会の成立を報告

(検討委員会設置要綱第6条第2項による)

2. 加藤委員長挨拶

前回の検討委員会では「高山小学校・大森小学校の統合」、「第一中学校及び第二中学校の当面の間の単独設置」、「長久小学校の引き続きの設置と将来的な統合の検討」、「朝波小学校の久手小学校への統合と将来的な第二中学校区全ての小学校統合の検討」など沢山の議題を審議いただき、その方向性を明確にすることことができた。

本日は、前回に引き続き温泉津地区及び仁摩地区の小中学校について議論を行い、その後、これまで確認いただいた学校のあり方に関する実施計画の見直し案を再確認していきたいと考えている。

本日の検討委員会の議事をもって大田市内全ての小中学校の方向性について確認することになるので、引き続き円滑な進行にご協力いただくようお願いしたい。

3. 第8回会議の議事録の確認（進行：加藤委員長）

指摘なし

4. 議事

（1）温泉津地区及び仁摩地区の小中学校について（説明：繩課長）

議事に係る質疑応答

発言者	内 容
委員	温泉津小学校について、県が河川の浸水地域の再調査を行っていると聞いているが、安全性はどうか。
繩課長	温泉津小学校は浸水地域ではないが、実態として大雨の時に校庭が浸水することがあった。仮に利用するということであれば、排水整備など一定程度の整備を行っていく必要があると考えている。
委員長	温泉津地区及び仁摩地区の小中学校について実施計画に記載することを検討委員会として了承してよろしいか。
委員	(はい)
委員長	それでは、この場で了承したとする。
（2）学校のあり方に関する実施計画の見直し（案）について（説明：繩課長）	
議事に係る質疑応答	

発言者	内 容
委員	<p>計画期間について、学校の再編統合が完了するまでとなっているが、社会情勢が変化していくなかで、曖昧な標記だと見直しの時期や方向性が明確に見えてこない。情勢変化や将来への見通しをもとに判断し、いつ見直すのか等の一定程度の目標値を定めた方がよいと感じた。</p> <p>二点目に、より良い教育環境とあるが、今後大田市がどのようにして魅力ある教育を実施していくかという前向きな表記があまりなされていないように感じた。どうしても子どもの数や老朽化した施設の安全性ばかり記載されているため、今後大田市がワクワクするような教育をしていく為にどのような再編を進めていくかを明記したほうがよいと感じた。</p> <p>もう一点、松江市内等の学校施設を見て総じて言えることが、長寿命化へ向けた点検が出来ていないということである。大田市として教育環境の点検をしっかり実施していく仕組みや体制づくりの項目を今回の見直しに盛り込んでおくべきだと思う。</p>
委員	<p>実施計画案の中で地元と協議という標記が何点か出てくる。それぞれの地域でしっかりと時間をかけて協議をしていただきたい。その地域に住んでいるからこそ知っている魅力や、既存のものだけではなく新しく作っていけるものなど、会議では拾い上げることが難しい地域の魅力をぜひ学校教育に反映できるような再編を考えていきたい。</p> <p>また、国の標準として定める12から18学級というのは大田市に置き換えると非現実的と考える。大規模校や小規模校にはそれぞれメリットデメリットがあり、どれが正しいかは一概には言えないが、少人数のための学校維持が困難ということであれば、校区撤廃や市外から人を呼びこめるような学校作りが大事だと考えている。例えば、語学留学や山村留学などのように市外から人を呼び込む事業を十分に活用し、発展させることで移住定住につながるような仕組みを考えていけたらいいのではないだろうか。</p>
委員	<p>この計画に盛り込んではほしいと思っていることがある。計画に出てくる文言に「将来的」、「当面」、「今後」等の非常に漠然とした標記がたくさん出てきているが、このような曖昧な文面をもう少し具体的にできたらいいと思う。</p> <p>また、資料2の2で示している短期中期・中期長期というのがいつ頃のことなのか判断できない。大田市内の統計資料を調べる機会があったが、昭和40年に830人、20年後の昭和60年は400人、さらに20年後の平成17年には300人を割り、現在は100人台と徐々に出生数が減っている現状がある。そのような中でこの「将来」というのがいつ、どれくらいの数の予想なのかというのを具体的にイメージができるようにしてほしい。難しいかもしれないが、今の若い子育て世代や子どもたちが見たときに元気になるような明るいビジョンが最後に盛り込まれるといいと感じた。</p>
委員	<p>第二中学校・大田西中学校に記載されている「小中一貫校や義務教育学校の設置についても検討します」という標記について、ある程度学校数を絞っていくことで施設点検に対するより安全なマネジメントプランを確保するという意図は理解できるが、学校の建替えが必要になった時に小中一貫校と義務教育学校の検討を行うというように読み取れてしまう。子どもたちの発達の連続性や可逆性を考えると小中一貫校や義務教育学校にはメリットがあり、反対に発達を越えていくなかには課題もあると言われている。施設を少なくするためではないと思うが、もし第二中学校や大田西中学校等に導入した場合は、小中一貫校や義務教育学校にしていくことの魅力やメリットを十分に伝え、通う子どもが新しい形の教育に魅力を感じてほしいと思う。</p>
委員長	教育ビジョンと再編の関係、見直しの期間などをある程度具体化して書いたほうがいいのではないかというご意見であったが、事務局としていかがか。

縄課長	<p>まず一点目に、計画期間を具体的に明記してはどうかという意見について、これまで議論いただいた内容を事務局でシミュレーションしたところ、実現までおよそ20年程度かかると考えている。ただ、本計画を20年間実施することは困難で、刻一刻と変化する情勢に対応していくには極端な話毎年見直しを行うべき状況にある。我々とすると、適宜見直すという表記はその状況が生じた時、あるいは予測される時に速やかに見直しを行うという思いで記載した。ただ、委員の皆さまがもっと具体的に明記した方がよいということであれば、検討しなければいけないと感じた。</p> <p>二点目の施設について、大田市はこれまで建物の維持管理に関して抜本的なことをしてこなかった実状がある。これに関してはこれまでの会議でも説明し、地域に出かけた際にはお詫びをしてきた経緯がある。また、個別の施設計画を作ろうということでスタートをきっていることから、メンテナンスに関する計画を本実施計画に盛り込みづらいという事実はある。ただ、そうした視点をまったく無視しているわけではないということはご理解いただきたい。</p> <p>三点目の、学校を施設の老朽化や数の理論で集約していくのではないかということについて、この側面がないというわけではない。21校の維持管理にかかる費用は莫大となってくることから一定程度集約というのは必要だと考える。また、同級生がいない学年や入学生のいない年度が学校によっては生じてしまうことを考えると、一定程度集約をしながら子どもが多様な考えに触れる環境を作っていくかねばならないと考えている。こうした場合、学校でどのような教育をしていくのかということだが、まずは学習指導要領を実現していくことが先決と考える。そのためには教師を的確に配置できる環境を整えていかねばならないし、加えて大田市の魅力、地域の財産をプラスαとして織り込んで学校の特色としていくようにしていきたい。これらを一個ずつ計画に盛り込んでいくというのはなかなか難しいと思うが、我々としてもそういった視点をもって学校再編統合というのを進めていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>見直しの時期について「適宜見直す」という書き方になっている。見直し時期は毎年になるかもしれないという話がでてきたが、この文言で確認するのか、もう少し踏み込んだものとするのか意見をいただきたい。</p>
森部長	<p>計画の年度を記述しなかったのは、子の出生数の減少が一番の要因である。現計画が策定された令和3年2月時点では225人の出生数が続くという想定のもとに学校は令和8年まで再編統合しないという結論であった。それが令和4年度には175人となり、昨年度には150人、そして本年度の出生数は130人ということで、我々としてもどれを基準にして再編統合を考えたらいいのか分からなくなってきたという現状がある。各年度における出生数を確認し、事務局内でこれを見直すのか見直さないのか一定の基準を設けて毎年度判断していきたいと考えているがいかがか。</p>
委員	<p>出生数が変動していくなかで毎年適宜見直しを行うことは正しい判断かと思う。ただ、学校はハード整備が必要なので、見直し内容をどのようにハード整備に結びつけるかという目標値はある程度設けたほうがよいと感じる。事務局のシミュレーションでいくと20年程度の計画見込みとのことだが、20年を4期に分けて5年スパンで変化を確認するなど、ハード面や体制に向けてどのように実施していくのかという目標値を入れておくことは必要だと感じた。</p> <p>また、公共施設については耐用年数の間は点検等実施せず、点検の必要が生じて初めて実施をしてきた。しかし、施設に関しては安全環境に対する管理者への責任を考えると、確実な点検と環境整備の実現は必須であると感じる。数の議論よりも適切な環境の醸成や、子どもたちが学びを前向きに捉えられるような環境を整備するためにもっと積</p>

	極的な実施計画にしていただけたらすごく魅力を感じるのではないか。そういう大田市だったら行きたい、学びたいと感じられる目標値を他部署も巻き込んでやっていってほしい。
縄課長	施設面についての意見をいただいた。先程個別施設計画の作成を検討しているとお話をさせていただいた。施設についてはかなり劣化が進んでいることから、毎年点検を実施し、修繕もかなりの数出てきているのが実態である。我々としても施設に対して定期的な点検を行い、必要があれば修繕をかけていくといったようなことは個別施設計画のなかに盛り込んでいきたいと考えている。一方で実施計画については出生数や教師の配置状況等が刻一刻と変わっていくため、毎年あるいは適切な時期での見直しは当然行っていく考えである。もし、全体を一度大きく見直してみるとどういった評価や点検を進めていきたいということで委員の皆様にご理解いただけるのであれば、3年なのか5年なのかも教育委員会の中で判断させていただき、本計画の中に盛り込ませていただけたらと考えている。
委員長	見直しの期間について、3年や5年といった数字が出てきたが、前回の計画では令和8年までは再編統合はしないとなっていた。これが逆に機動力を失ってしまったという側面もある。ただ、そういった数字が無いと動かないかもしれないといった心配が出てくることから、年数を決める良し悪しというものがあると思うがいかがか。
縄課長	適宜見直しという文言を残しつつ3年ごとや5年ごとに計画全体の見直しもするというように理解いただきたい。当然出生数や教師の配置状況というのは変わってくるので、そのことについては毎年のように評価をしていかなければならないし、一方、施設面で考えていけば、ある程度の期間をとって大きく見直していくことも必要かと考えている。
委員長	事務局から適宜見直しをしつつ3年5年とあった。この数字については何か提案はあるか。
縄課長	先程の学校の方向性についてご検討いただいた中で、大きく出てきたのが令和11年度であったかと思う。令和6年度の5年後が令和11年度ということから、5年おきとさせていただきたい。ただ、5年に縛られるのではなく、5年を一つの目安として必要があれば見直すということを念頭におきながら、実施計画を進めていけたらと考えている。
委員長	改めて事務局から提案があったがいかがか。
委員	(はい)
委員長	それでは、今の提案を了承したということで、文言を加筆する。 あわせて、これまで意見として出てきた教育の魅力づくり、教育ビジョンについては検討していただきたい。計画に文言として書くか書かないかは別として、本会としては押さえておきたい内容だと思っている。 改めて全体を通しての意見はあるか。 それでは、事務局から提案のあった素案に先ほど了承いただいた文言の加筆を行った見直し案について、確認したということでおろしいか。
委員	(はい)
委員長	それでは、この場で確認したとする。
5. その他 (説明: 縄課長)	
●実施計画の変更	
今回の検討委員会で全ての小中学校の方向性について確認をさせていただいた。委員の皆様から様々な観点で意見をいただいたので、今後はいただいた意見を踏まえて実施計画の見直し	

を進めていきたい。実施計画の見直し案については皆さんからもご意見等いただけ、より良い見直しとなるようにしていきたいと考えている。

6. 閉会

●教育長挨拶

昨年10月から本日まで9回の長きにわたりこの委員会を開催してきた。特に加藤委員長におかれでは非常に難しい会の進行を丁寧に進めいただき、心から感謝申し上げる。また、それぞれの立場や専門性を踏まえ、積極的にご発言いただいた委員の皆さま方に対して心からお礼申し上げる。

本日は大田市の学校のあり方の大きな方向性について一定の結論をいただいたと思っている。委員の皆様からは教育委員会が提示した素案を基に様々な角度で貴重な提案、あるいは意見をいただいた。その中で、私たちが気付かなかつた点、見通しの甘かった点などの指摘を受け、自分たちが行政としてどのようなことが出来るのかということを改めて問い合わせ機会となった。今後は本日いただいた結論を踏まえ、それぞれの地域で意見をいただき、新たな魅力ある学びの場を作りたいと考えている。

一方、財源の問題や人口動態など著しいスピードで新たな課題が出てきている。教育課題の問題等を考えると、大きな方向性の結論は出たが、一年一年問い合わせながら、修正あるいは方向転換を含めて考え直していくかなければならないと感じている。こうした魅力の創出とあわせて現場がまず安心して学べる場となるよう、教師がきちんと配置され、落ち着いて学習出来るような学級づくりを行う必要がある。そういうことを考慮すると、まず一定の集約をし、その上で大田市ならではの新たな魅力を地域の皆さんと一緒に作っていきたいと考えている。委員の皆様には今後とも大田市教育にご尽力ご協力いただくようお願いするとともに、これまでの長きに渡ってのご尽力を心より感謝申し上げる。

以上をもって、第9回検討委員会を終了した。